

2024年6月8日作成

第1.0版

当院で診療を受けられた患者さん・ご家族様へ
臨床研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、普段の診療で得られた情報を使用させていただくものです。この研究のために、新たに診察や検査などを行うことはありません。以下の情報を研究に用いられたいとお考えの患者さんまたはご家族の方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた患者さんの情報は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

IVIM 解析を用いたステントグラフト内挿術後のエンドリークによる瘤拡大の予後予測

1. 対象となる患者さん

2015年1月～22年12月の間に当院で Excluder（ステント名）を使用し腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術を受けられた患者さん

2. 研究責任者

奈良県立医科大学附属病院 中央放射線部 山谷 裕哉

3. 研究の目的と意義

この研究は、カルテ情報を解析し、ステントグラフトを用いた腹部大動脈瘤手術（EVAR）後の生命予後に関わる瘤内への血液の漏れ（エンドリーク）の程度を明らかにすることを目的としています。EVAR では大動脈瘤そのものを取り除かないため、長い期間経過後に瘤が破裂したりすることが原因で死亡するリスクがあります。そして、このような深刻な問題は時間が経つにつれて増えていき、定期的な経過観察が非常に重要です。この研究の成果は、ステントグラフトを用いた腹部大動脈瘤手術後の瘤拡大における予後予測に繋がること期待されます。

4. 研究の方法

5. に示す情報を対象の患者さんのカルテから収集し、腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術後における大動脈瘤の大きさの変化やCT、MRI 画像から計算される瘤内の僅かな血液の流れの情報を算出します。

5. 使用する情報

診療情報：診断名・年齢・性別・腹部大動脈瘤の大きさ、CT 画像、MRI 画像

6. 情報の管理責任者

奈良県立医科大学附属病院 中央放射線部 山谷裕哉

7. 研究期間

研究機関長の実施許可日～2025年12月31日

8. 個人情報の取り扱い

対象となる患者さんの個人情報は厳重に管理し、利用する情報等からはお名前や住所等、個人を特定できる情報は削除し、研究番号に置き換えて使用します。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公表しません。

9. お問い合わせ先

奈良県立医科大学附属病院 中央放射線部 山谷 裕哉

住所：奈良県橿原市四条町 840 番地

電話：0744-22-3051

e-mail：y-yama@naramed-u.ac.jp